

今月の目標は「1日一度外に出る」だ。

気候がよい季節なので、できるだけ毎日散歩をする。

目標どおり、天気の良い日には毎日近くの公園や保育園、中学校などに出かけた。公園で園児が運動しているときもあった。

また、利用者さんが鉄棒や滑り台をする日もあった。

地区の運動会やお祭りにも出かけていった。

散歩に行くと感動的な光景に出会う。何も言わず車椅子を押してくれるKさん。車椅子を押している女性職員に「重かるう？」と声をかけ手を差し伸べてくれるNさん。

吾も紅は、決して「軽度」な利用者ばかりではない。どちらかといえば「重度」の認知症の方が多い。毎日だれかがそわそわすると皆いっせいに帰りだすし、1人が「ご飯食べていない」というと「私も食べてない」「じゃあ食べに行こうか」と出かけようとする。元気すぎて窓から飛び降りてしまうこともある。しかし、認知症の人を閉じ込めておくことで行動が収まるわけではない。Yさんがここに来る前に入っていたグループホームでは、「道路に出たら危ないから」という理由で玄関に鍵がかかっており、Yさんは自由に外に出られないことにいらいらして一ヶ月で退居したらしい。

毎朝、外に出たい人を募り送迎車に乗ってドライブに行くがYさんは車窓から秋の風景を見てしみじみ「生きててよかった」とつぶやいた。

認知症の方は「いま」しかない。いっぱいになったバッグから記憶が零れ落ちることについて、「かわいそうだ」という人もいるが、私は逆に常に「いま」を真剣に生きられることについて羨ましく思う。この瞬間をできるだけのお楽しみや喜びで満ちし、「生きてて良かった」と思ってもらえること。その感動を共有することが「ともに生きる」ことだと思う。

涼しくて美しい秋の季節、吾も紅の面々は今日もまたより添って歩く。

